

越の原ササユリ群生地での種採取

11月26日、穴水ササユリ会会員6名が参加して越の原ササユリ群生地で「ササユリの種」の採取と電気柵の下などの草刈り、看板周辺の雑木の剪定作業などを行いました。合わせてササユリの位置を確認するためのポールも回収し、来年5月頃に再設置する予定です。

ササユリの果実は作業当初30個ほど採取しましたが(新聞報道はこの時点)、電気柵の修理をしながら確認して行ったところ、さらに10個ほど取れましたので、合計で40個ほどになりました。種の数、果実1個で約300個くらいありますから、約12,000個の種を採取したことになります。

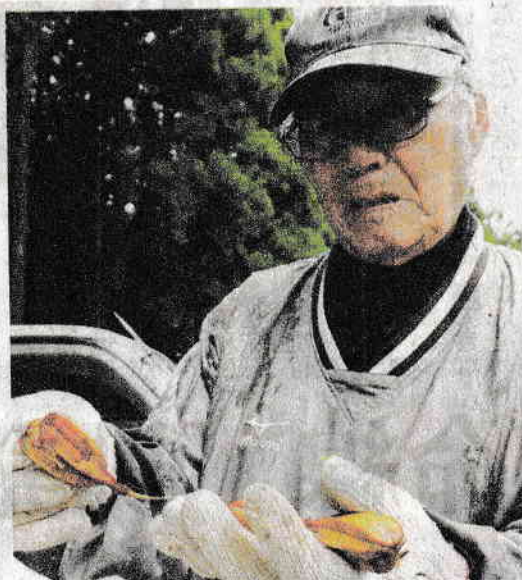
この種は来年3月(後日、案内します。)中旬に群生地に蒔く予定です。会員の皆さんにはまたご協力をお願いすることになります。よろしくお願いいたします。

当日の参加者名

道本 巖夫会長
池上 悟
勝井 寛
幸崎 久史
滝井 元之
協力 熊谷 朋也
(関西学院大学4年生)
(敬称略)

当日は、あいにくの雨で作業がやりにくかったのですが、なんとかやり切ることができました。

この日、兵庫県の関西学院大学4年生の熊谷朋也さんがボランティア活動のため穴水町に来ていたので、活動に参加してもらいました。



ササユリの果実を持つ滝井元之さん＝穴水町越の原で

ササユリ 来春へ種採取 穴水の会

穴水町花のササユリの保「ササユリ会」は26日、同町越の原の群生地で、来春に向

けて種の採取と草刈りに取り組んだ。
10年ほど前、群生地はイノシシの被害などで壊滅状態に追い込まれていたが、会員らが手をかけ現在は約500株にまで回復。この日は会員ら6人が、長さ4メートルほどの果実約30個を摘み取った。1個当たり約300粒の種が入っており、来年3月に周辺にまく。
メンバーの滝井元之さん(80)は「株の数はだいぶ増えてきた。道路から花の匂いを嗅ぐことができるくらいの大群生地に育てたい」と意気込んだ。(山谷 恒裕)

(北陸中日新聞 11月25日付朝刊)

街の花
ササユリの

当日の活動の様子

再生をねがい



ササユリの種採取
県の準絶滅危惧種に指定
されている穴水町花「ササ

ユリ」の保全に取り組む穴水ササユリ会は26日、同町越の原の群生地で、来春にまく種を採取した11写真。会員6人がササユリの実から約1万粒の種を取り、イノシシの侵入を防ぐ電気柵の動作を確かめ、草刈り機で下草を刈った。種まきは来年3月に行う予定。

(北国新聞 11月29日朝刊)



道路の反対側にもササユリがあります。

